る上で限りない示唆に満ちていると言えます。
以下、TRTの基本コンセプトを簡単にまとめておきます。

【1．跡地利用、三つの視点】

高島平地域の再生を考える場合、複合的な視点から高島平を捉えることが肝要である。具体的には、戦後日本の縮図という高島平の位置に鑑みて次の3つの視点から考察することが求められる。①高島平地域そのものに即して、②東京都の城北地区という位置づけにおいて、最後に、③全国規模の地域再生に関連づけて考察する。

高島七小跡地の可能性をこれら三つの視点から見つめ直すことにより、高島平は「文化発信力ある健康教育都市」という地域の個性を確立できる。と同時に、持続可能な地域再生のための普遍的な発信拠点になりえる。

【2．持続可能都市空間の要素。タワー＋広場＋森林緑地（TRTモデル）】

「文化発信力ある健康教育都市・高島平」を持続可能都市の普遍的モデルとして再生する上で、高島七小跡地は立地、面積などで格好な条件を備えた土地である。普遍的なモデル形成という視点から、不可欠な要件は、次の二点である。

（1）「文化発信力ある健康教育都市」という視点から、高島七小跡地全体は空間的に以下のように三区分される。

a．タワービル
b．広場：アート広場、マーケット広場、健康広場
c．緑地：森、ビオトープ、クラインガルテン

（2）同じく「文化発信力ある健康教育都市」という視点から、タワービル（仮称高島平ルネッサンスタワー）の利用ゾーンは、以下の「公共ゾーン」「教育ゾーン」「ホテル・アメニティーゾーン」に三区分される。

a．公共ゾーン：コンサートホール（劇場ホール）、講演会ホール、板橋区立博物館、ショッピング・インフォメーションエリア、国際会議場・パーティ-ホール
b．教育ゾーン：区立図書館、連合大学・大学院、各種ワークショップルーム、遊びスペース、コミュニティーカフェ
c．アメニティーゾーン：ホテル・レストラン

【3．TRTモデルに見る「持続可能都市の空間編成」の原理】

TRTを構成する「タワービル」「広場」「緑地」は、相互にリンクすることで、それぞれ単体では期待しがたい相乗効果が発揮できる。若干の実例を挙げておく。

（1）モノの動きに即した空間のリンク

a．落ち葉

森の落葉→落葉の堆肥化→堆肥をクラインガルテンで肥料として利用する→野菜・果実の収穫→野菜・果実をタワーのレストランで食材として使用する、あるいは「マーケット広場」で販売する→レストランの食べ殻をコンプスト化する。

b．使用済みプラスチック

例えば、ペットボトルのキャップなどは次のようTRT内での空間のリンクを考えることができる。

ワークショップルームで「キャップの再製品化」について討議する→［板橋区内内外の工場で再製品化］→タワー内レストランでトレイ（再生プラスチック）やランチョンマット（同）として使用、またはショッピング・アメニティエリアでこれらのトレイやランチョンマットを販売。

（2）人の動線に即した空間のリンク

ここでは、例えば、「地域再生交流センター」に集う内外参加者の動線に即して次のような「空間